

入間市駅前側留保地の活用へ再始動！

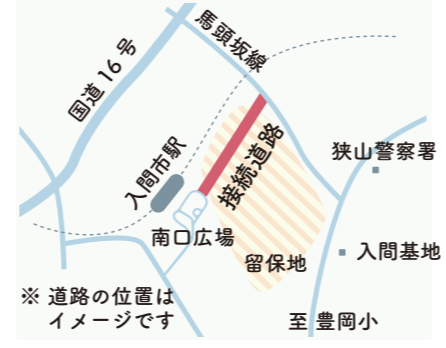
馬頭坂線接続道路から先行整備へ

長きにわたり要望して参りました入間市駅前側の基地跡地留保地の活用に向けた動きが始まりました。平成20年度に利用計画書が策定されたものの、動きがないままなかなか進まず、駅前の広大な敷地をどうするのか疑問に思われていた方も多いためではないかと思えます。

今回、計画の見直しと南口交通広場と馬頭坂線をつぶ道路の検討が進められることになりました。道路整備は、駅前ロータリーの拡張にもつながります。今年度末までに方針が示される見通しです。市民の皆さんに喜ばれることはもとより、市全体および中心市街地・商店街の活性化につながるものであることが望まれます。

近年オープンした飯能市のメッツァなど、入間市を囲む近隣市では魅力的なコンテンツやブランド、サービスの誘致に成功しています。留保地の開発でも検討すべきで、市が積極的に「営業活動」をしていくことが必要です。

しかし、問題はここからです。開発には多額の資金が必要になることが見込まれます。現在の市の財政では、市だけで取り組むのは困難です。外部の民間活力の導入が必須です。PPP(公民連携)など、他の自治体での先進事例も参考に、国や県も含めた調整と実現力のあるプラン作りを働きかけてまいります。



現在の入間市駅南口交通広場と留保地

道路の安心安全に取り組めます。



齊藤県議と現場で協議。連携が必要な問題解決は力を合せて進めます。

道路は、お年寄りから小さな子どもまで、すべての人が日々安心して移動できるものでなくてはなりません。危険な箇所などは地域の方々との現場での確認や話し合いを重ねて市に早急の改善を働きかけています。最近では、久保稻荷1丁目交差点の改良、東町交差点の指示信号増設、扇台1丁目交差点の横断歩道整備などが実現しています。

市単独では進められないものもあります。現在、県道・青梅入間線の国道16号との交差点付近の歩道拡張整備にも取り組んでいます。県に関わる場所であるので、齋藤正明県議と協議し、早速ご調整をいただき、まず県での測量がスタートします。

道路の安心・安全でお気づきの点がありましたら、お声かけください。

一昨年の台風19号は市内に大きな爪痕を残しました。現在、その対応についても検証を進めているところです。災害復興を含め地域の安心安全は私の政治活動の原点であり、様々なテーマや課題解決に取り組んでいます。

備える。災害に強い入間を目指して

岩沼市と防災協定締結

被災地に幾度となく足を運んできた経験から、自治体間の日ごろの協力体制が必要だと感じていました。これまでは、協力先自治体が県内に集中していたのですが、同じ災害に被災した場合には心もとないものがありました。

今回、県外自治体では佐渡市に続いて、宮城県県の岩沼市との協定を締結しました。東日本大震災を経験した街です。今後は、個別の協定だけでなく、複数自治体による防災都市ネットワークの構築も働きかけていきます。

災害はつらいことですが現実としてあり、時には支援に携わることもあるかもしれません。しかし、絆と経験は危機管理能力を強化します。相互の協力体制を強くすることが必要です。

消防団員免許取得補助

消防団車両には、普通免許では運転できないものがあります。そのため、消防団活動や団員加入の障害になることもありました。そこで、必要な免許取得をサポートすべく消防団員に取得費を補助する制度を要望し、他の自治体に先行して支援制度が始まりました。現在既に3人の方にご活用頂いています



消防団における訓練活動

重点テーマ

- ・防災対策(治水強化、首都圏直下型地震対策、マンション防災等)
- ・災害時対応(情報伝達、避難所運営、災害に強い水道づくり)
- ・家庭内流通備蓄(ローリングストック)、防災用品備蓄の推進
- ・消防団活動の充実化(連携協力強化、団員・加入支援)
- ・広域「防災ネットワーク」の構築
- ・防災ハザードマップの見直し
- ・体験型防災訓練や帰宅困難者徒歩訓練など防災教育の推進 など

おとろろうまつりの幟を復元！

「おとろろうまつり」のシンボルでもある幟(のぼり)が復元されました。高さは約16メートルもありとても大きいのです。

幟旗は以前に一度、半世紀ぶりに復元されたのですが、その後風雨にさらされ破れてしまい、幟竿の方も昭和の時代に使われたものを使用していたため、こちらも老朽化が進んでいました。

おまつりは伝統と文化であると同時に、地域コミュニティの絆をつなぐ大切な役割も担っています。おまつりとその道具は、地域の絆に活力を与えてくれる大切なものであり、後世に引き継いでいかななくてはなりません。自治会の加入者が減る中で、伝統文化の継承が難しくなっています。財源確保も難しく、修繕を重ねていくことも大変です。



復元された幟の旗と竿



大塚代議士とは日頃より対話を重ね、入間市のためにご協力頂いています。



早朝、大勢の方々の手で竿を搬入

助成されました。修繕を終えた竿はとても長いので、交通量の少ない朝4時から野から運搬し、最後は集まった約40人の方々により搬入。一昨年のおとろろうまつりは、この新しいのぼり旗が掲げられ、多くの来場者を見守りました。

学童保育室の拡充へ！

学童保育室はこれまで、市が設置して直接運営する「公設公営」で実施してきましたが、その充実に向けて民間活力の導入について議会の一般質問でも取り上げました。それにより民間事業者の豊富な経験や幅広い知識を入間の学童保育に活かしてもらえることが期待できますし、職員が不足した際も柔軟に対応ができるからです。

市にも動いていただき、民営化が導入され、開室時間の延長も開始します。この4年間で3か所の学童保育室が新設・移設され

ました。令和3年度にはさらにもう1か所設置される予定です。

共働き世帯の増加や働き方、家族のかたちが変わる中、少子化が進む一方で学童保育のニーズは逆に増えています。子どもの保護者が安心して働くことができるためには、放課後の子どもたちの安全な居場所が必要になります。待機児童解消のための環境づくりとして、民営化は有効な手段と考えています。

子育てがしやすいまち入間をめざして、

もっと子育てしやすい街へ！

保護者の皆さんのお声を聞きながら、学童保育以外にも応援につながる活動に取り組んでいきます。

年	施設	運営方式
平成30年	藤沢南(第1・第2)	公設公営
平成31年	東町第2	公設公営
令和2年	藤沢東第2	公設公営
	こどものくに保育園	民設民営
令和3年	金子(第1・第2)	公設民営

最近の学童保育室整備状況

「ていーろーど」の命名権を売却し新規歳入を実現！

人口減少社会が進む中で、入間市の財政もますます厳しくなることが見込まれます。その様な中で、私は「かせぐ市役所」をかねてより訴えてきました。皆さまからお預かりする税金だけに依存するのではなく、もっと市行政自身が税金※以外の収入をみずから増やしていく知恵や工夫、努力が必要だと考えています。

(※ 交付税等の国・県からの収入・補助を含む) 昨年末にコミュニティバス「ていーろーど」の車両への企業の命名権(ネーミングライツ)の売却が実現しました。10年間で1,000万円ではありますが、この様な取り組みをコツコツ積み重ねていくことが大事だと思っています。

かねてより提起していた、「企業版ふるさと納税」

「クラウドファンディング」の導入も、新たに就任された杉島市長も同様に検討されています。

公共施設の整備でも、例えば入間にはないサービスやカフェの誘致など、施設や公園が市民の皆さまからの利用料以外の収入(事業収益)をつくる必要があると考えます。

「かせぐ市役所」に向けた改革が進むことを期待するとともに、企業誘致や移住促進も含め、市行政が「営業活動」を推進できるよう、出来る限りのことをしたいと考えています。



人口減少社会の行財政改革「かせぐ市役所」に一步前進！